

インバウンドの「変化の兆し」をいち早く  
**都道府県別訪日外客数と訪問率**  
月次指標の早期推計：11月レポート

野村亮輔（副主任研究員）  
稻田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）  
松林洋一（APIR 上席研究員）  
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail: [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp)

## ポイント

### ●12月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

▶JNTO 訪日外客統計によれば(図 1 及び表 4)、**11月の訪日外客**

**総数(推計値)**は**351万8,000人**であった。前年同月比+10.4%とかうじて4カ月連続で2桁の伸びを維持したが、増加幅は前月(同+17.6%)から縮小。中国人客の訪日旅行手控えが影響した。また、**同月の出国日本人数**は**133万人**であった(同+13.2%)。なお、2019年同月比では-19.0%と減少幅は前月の同-25.2%から縮小したが、**アウトバウンド需要の回復ペースは依然緩慢**。

▶訪日外客数のトップ5を国・地域別にみると(図 2 及び表 4)、11月は**韓国が82万4,500人**(前年同月比+10.0%)と**最多**であった。次いで中国が56万2,600人(同+3.0%)、台湾が54万2,400人(同+11.1%)、米国が30万2,500人(同+22.2%)、香港が20万7,600人(同-8.6%)と続く。**中国**は日中関係悪化による訪日旅行の手控えが影響し、**増加幅は前月の同+22.8%**から**大幅縮小**。また、**SNS等による誤情報の影響が払拭されず、香港は7カ月連続の減少となり、減少幅は前月(同-1.4%)から拡大した**。

▶目的別訪日外客総数(暫定値)をみれば(図 3 及び表 5)、**9月は326万7,228人**(前年同月比+13.7%)。うち、**観光客は289万3,816人**(同+13.7%)、**その他客**は25万3,515人(同+13.2%)、いずれも**9月として過去最高値を更新した**。また、**商用客**は11万9,897人(同+15.6%)であった。

▶レポート No.76 及び 77 では、万博閉幕後の観光誘客策の事例を取り上げた。今回は**観光庁の2026年度予算からみた万博レガシー事業を取り上げ、その特徴をみよう**。観光庁の関係予算(2025年12月26日公表)は、1)「インバウンドの受入れと住民生活の質の確保との両立」、2)「地方誘客の推進による需要分散」、3)「観光産業の活性化」、4)「その他」の項目からなり、**総額1,383億4,500万円**が計上されている。3)のうち、「**万博レガシー事業**」では2億5,000万円が計上されており、大阪・関西万博で得られた世界から日本への関心、来場者の体験・学び等を重要なレガシー(遺産)として観光分野へ活用される予定である。

▶具体的には、1) **万博に関連する関西エリア周遊ツアーの造成**や2) **万博出展者と万博参加国による交流機会の創出、促進**などである。特徴的なのは、**観光客への観光プログラム造成のみならず万博出展者と参加国との交流機会の創出**を図っていることである。こうした取り組みにより、国内外へ関西の魅力が発信されれば、**関西広域観光の一層の促進**につながることが期待される。

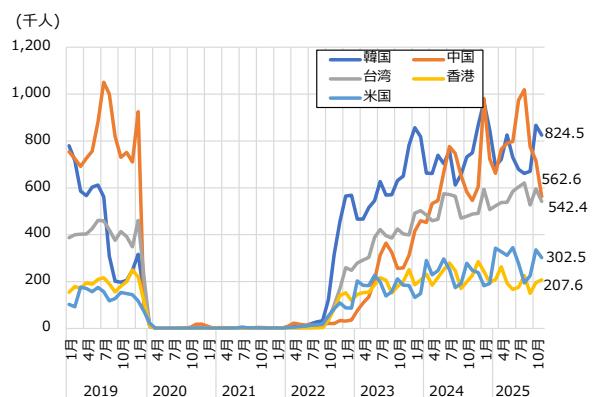
図 1 訪日外客数及び出国日本人数の推移



注：2023年まで確定値、24年、25年9月は暫定値、25年10-11月は推計値

出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成

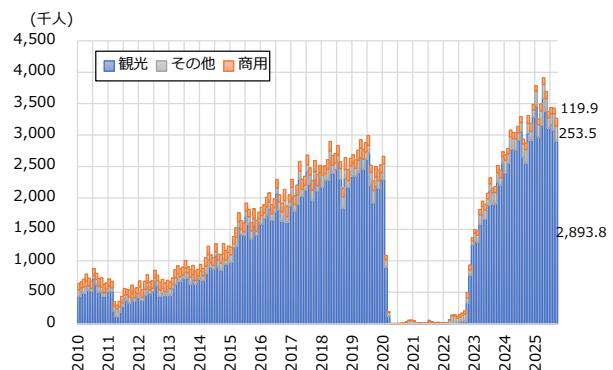
図 2 上位5カ国・地域別訪日外客数の推移



注：なお、TOP5の国・地域は値を表示している

出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成

図 3 目的別訪日外客数推移



注：目的別訪日外客数については訪日外客数(推計値)から2カ月遅れて発表される。「観光客」とは、短期滞在の入国者から「商用客」を引いた入国外国人で、親族友人訪問を含んでいる。「その他客」とは、観光、商用目的を除く入国外国人で、留学、研修、外交・公用などが含まれる

出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成

\*なお、観光庁「訪日外国人消費動向調査」の訪問率のデータが2023年9月から公表が再開された。このため、中断していた訪問率の月次推計についてはデータの蓄積を待って今後再開する予定である。

## トピックス 1

### ● 11月関西の財貨・サービス貿易及びサービス産業動向

- ▶ 関西 11月の輸出額は前年同月比+7.6%と 14カ月連続で増加し、増加幅は前月の同+4.7%から拡大した。また、輸入額は同+4.6%と 5カ月ぶりの増加(前月：同-2.0%)。輸出、輸入ともに増加し、前者の伸びが後者のそれを上回ったため、関西の貿易収支は+2,912億円と 10カ月連続の黒字となった(図4)。黒字幅は同+28.6%と 7カ月連続で拡大した(前月：同+74.6%)。
- ▶ 対中国貿易動向をみると(図5)、関西 11月の対中国輸出は前年同月比+5.3%(前月：同+6.2%)と 3カ月連続の増加となった。輸出増に寄与したのは、半導体等電子部品や医薬品等。また、对中国輸入は同+8.9%(前月：同-1.5%)と 2カ月ぶりの増加。輸入増に寄与したのはがん具及び遊戯用具や医薬品等であった。
- ▶ 11月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は 90万2,170人(図6)。この3カ月、前年同月比は2桁の伸びを記録したが、11月は1桁に減速した(同+7.6%)。同月の日本人出国者数は 26万4,767人、同+18.5%と増加幅は前月の同+8.6%から拡大した。なお、2019年同月比では-17.4%と、減少幅は前月の同-27.6%から縮小した。
- ▶ サービス業の生産活動を示す第3次産業活動指数(季節調整済み：2019-20年平均=100)をみれば(図7)、11月は105.5で前月比-0.2%と 2カ月ぶりのマイナスとなった(前月：同+0.9%)。経済産業省は基調判断を「一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動き」と前月から据え置いた。また、同月の対面型サービス業指数\*は106.3で同+0.5%と、2カ月連続のプラス(前月：同+0.3%)。うち、宿泊業、飲食サービス業(同+2.7%、2カ月連続)、医療、福祉(同+0.7%、2カ月ぶり)等が上昇に寄与した。10-11月平均を7-9月平均と比較すると、第3次産業活動指数は+0.7%、対面型サービス業指数は+0.2%といずれも小幅上昇した(7-9月期：第3次産業活動指数：前期比+0.4%、対面型サービス業指数：同+0.2%)。
- ▶ 11月の観光関連指標\*\* (季節調整済み：2019-20年平均=100)は(図7)、115.0と前月比+2.4%上昇し、3カ月ぶりのプラス(前月：同-0.6%)。うち、宿泊業、飲食サービス業や劇場・興行団(同+11.7%、2カ月連続)等が上昇に寄与した。10-11月平均は7-9月平均比+0.6%と小幅上昇した(7-9月期：前期比+0.2%)。

\*対面型サービス業は、「運輸業、郵便業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「学習支援業」及び「医療、福祉」を指す。

\*\*観光関連指標は第3次産業活動指標のうち、「旅客運送業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「旅行業」、「映画館」、「劇場・興行団」及び「公園、遊園地・テーマパーク」の各指標の加重平均。

図4 関西 対世界貿易の推移

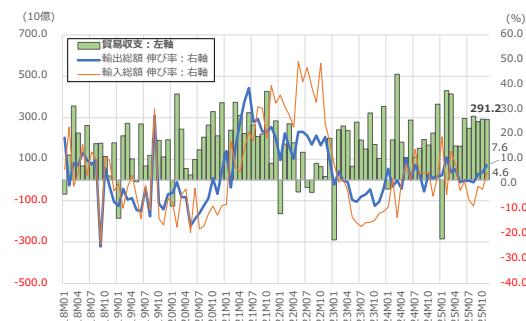
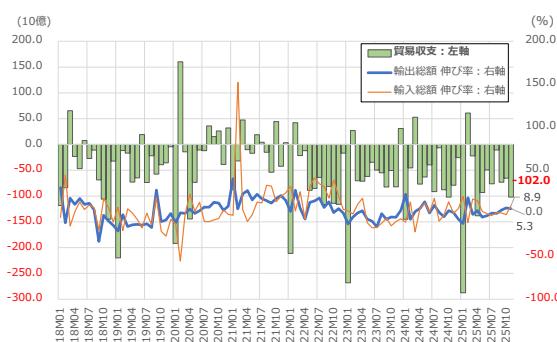


図5 関西 対中貿易の推移



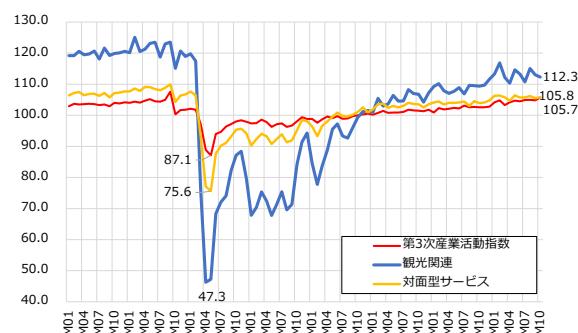
出所：『大阪税関貿易速報資料：近畿圏』(図4及び5)  
より筆者作成

図6 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所：出入国管理統計より筆者作成。  
2025年11月値は速報値

図7 観光関連 対面型サービス 第3次産業：  
2019-20年平均=100



出所：経済産業省「第3次産業活動指標」より筆者作成

## トピックス 2

### ●9月延べ宿泊者数の動向：関西2府8県

►観光庁によれば、9月の関西2府8県の延べ宿泊者数(全体)は11,459.8千人泊(表1)。前年同月比+2.2%と2ヶ月連続で増加した(前月：同+2.9%)。

►日本人延べ宿泊者数は8,136.4千人泊となった。前年同月比+7.1%と5ヶ月連続の増加(前月：同+4.6%)(表1及び図8)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府3,412.1千人泊と最も多い。次いで、京都府1,319.4千人泊、兵庫県1,155.8千人泊、三重県661.7千人泊、滋賀県386.8千人泊、和歌山県313.3千人泊、福井県296.8千人泊、奈良県216.8千人泊、徳島県198.4千人泊、鳥取県175.3千人泊であった。関西9月の前年同月比(+7.1%)に対する寄与度をみれば、大阪府(同+9.9%ポイント)、奈良県(同+0.2%ポイント)や滋賀県(同+0.2%ポイント)等、5府県が増加に寄与した。一方、減少に寄与したのは、兵庫県(同-1.5%ポイント)、京都府(同-1.2%ポイント)や鳥取県(同-0.5%ポイント)等、5府県であった。

►外国人延べ宿泊者数は3,323.4千人泊であった(表1及び図9)。前年同月比-8.1%と3ヶ月連続で減少し、減少幅は前月の同-1.0%から拡大した。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、京都府1,510.1千人泊、大阪府1,461.8千人泊と2府に集中している。次いで、兵庫県155.6千人泊、和歌山県77.8千人泊、奈良県33.5千人泊、三重県31.3千人泊、滋賀県17.0千人泊、鳥取県15.5千人泊、徳島県14.6千人泊、福井県6.3千人泊であった。前年同月比(-8.1%)への寄与度をみれば、大阪府(同-14.4%ポイント)、滋賀県(同-0.1%ポイント)の2府県が外国人延べ宿泊者の減少に寄与した。なお、大阪府は4ヶ月連続で減少に寄与しており、日本人宿泊者の動向(5ヶ月連続増加)とは対照的な動きとなっている。

►なお、宿泊料金と賃金との交易条件(現金給与総額/宿泊料金:2019年=100)をみれば、2025年11月は72.9となった。前年同月比-7.9%と32ヶ月連続で悪化した。宿泊料金の高止まりが続いている中、依然として日本人宿泊者にとっては厳しい状況が続いている(図10)。

図8 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

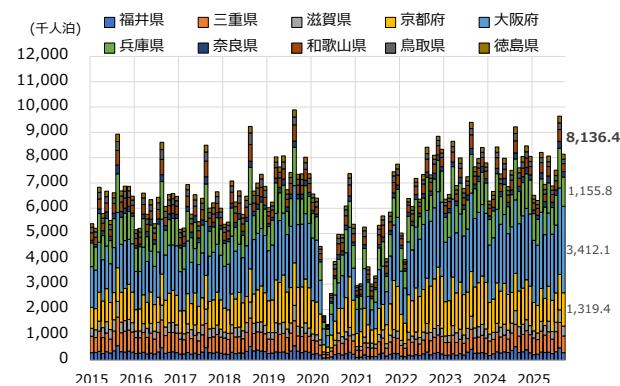


図9 府県別外国人延べ宿泊者数の推移

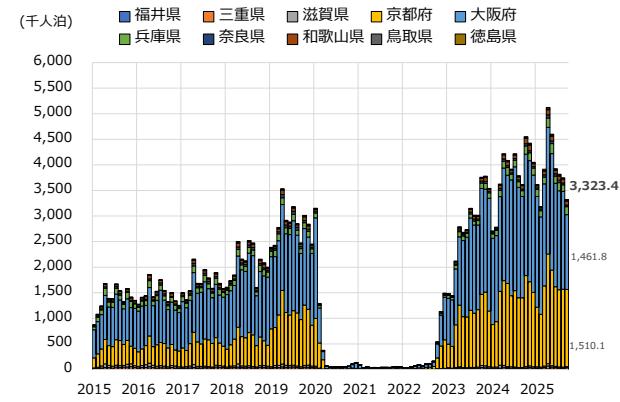
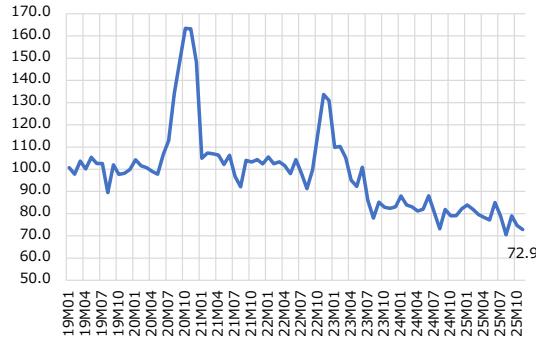


図10 宿泊料金と賃金の交易条件  
(現金給与総額/宿泊料金)



## トピックス 3

### ●2025年7-9月期訪日外国人訪問率と消費単価：関西

►観光庁によれば、**2025年7-9月期における関西各府県の訪問率**をみると(図11)、大阪府42.6%が最も高く、次いで京都府30.0%、奈良県10.2%、兵庫県5.2%、和歌山県1.3%、三重県0.7%、滋賀県0.6%、鳥取県0.4%、福井県0.3%、徳島県0.2%と続く。前年同期と比較すると(表2)、大阪府+2.0%ポイント、京都府+0.5%ポイント、奈良県+0.4%ポイント、鳥取県+0.1%ポイント、兵庫県+0.1%ポイント、滋賀県+0.0%ポイント、それぞれ上昇した。一方、徳島県-0.1%ポイント、和歌山県と三重県は-0.0%ポイントといずれも小幅低下となつた。なお、管区別に訪問率の前年差をみると、北海道、中部、九州が小幅の伸びにとどまっているのに対して、近畿は同+1.7%ポイント上昇している。一方、関東は同-1.0%ポイントの低下となっている。

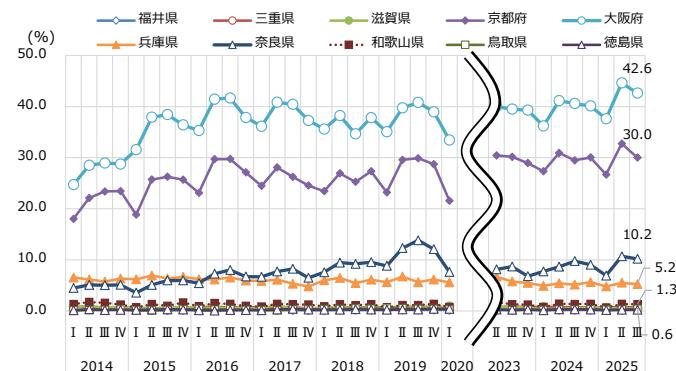
►当該期間の各府県の訪問率に訪日外客数を乗じて推計した関西における訪日外客数をみよう。**2025年7-9月期の訪問者数**を降順にみれば(表2)、大阪府431万8,417人(前年同期比+16.9%)と最も多く、次いで京都府304万890人(同+13.4%)、奈良県103万2,163人(同+16.4%)、兵庫県53万602人(同+13.5%)、和歌山県13万2,263人(同+8.7%)、三重県6万6,998人(同+4.9%)、滋賀県5万7,706人(同+14.7%)、鳥取県4万1,433人(同+66.0%)、福井県2万8,767人(同+54.9%)、徳島県2万1,370人(同-23.8%)と続く。

►観光庁によれば、**2025年7-9月期の関西における訪日外国人消費単価**(旅行者1人1回当たりの旅行消費金額)をみると(表3)、**関西2府4県では前年同期比+0.8%小幅増加した**。費目別にみれば、飲食費(同+3.9%)、娯楽等サービス費(同+6.3%)や宿泊代(同+0.1%)が増加した一方で、交通費(同-14.4%)や買物代(同-11.5%)が減少した。

►観光庁によれば、**2025年7-9月期の関西における訪日外客消費額は5,511億円となり**(表3)、**前年同期比+16.1%増加した**(25年4-6月期:同+33.7%)。なお、同期の全国の消費額\*は1兆9,525億円、同+15.0%となり(25年4-6月期:同+21.2%)、関西は全国の伸びを幾分上回った。

\*全国の消費額については本レポートNo.76を参照。

図11 訪日外国人訪問率の推移：関西2府8県



出所:観光庁『インバウンド消費動向調査』より筆者作成。

表2 訪日外客の訪問率と人数：関西2府8県

府県ベース	24Q3		25Q3		前年差	単位:%、人
	24Q3	25Q3	24Q3	25Q3		
福井県	0.2	0.3	0.1	0.2	-0.1	54.9
三重県	0.7	0.7	-0.0	0.0	0.0	4.9
滋賀県	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0	14.7
京都府	29.5	30.0	0.5	0.5	0.0	13.4
大阪府	40.6	42.6	2.0	2.0	2.0	16.9
兵庫県	5.1	5.2	0.1	0.1	0.1	13.5
奈良県	9.7	10.2	0.4	0.4	0.4	16.4
和歌山県	1.3	1.3	-0.0	-0.0	-0.0	8.7
鳥取県	0.3	0.4	0.1	0.1	0.1	6.0
徳島県	0.3	0.2	-0.1	-0.1	-0.1	-23.8
運輸局ベース	24Q3	25Q3	24Q3	25Q3	前年比伸び率	
北海道	6.7	7.0	0.2	0.2	-15.2	
関東	54.0	53.0	-1.0	-1.0	9.3	
中部	11.2	11.5</				

表4 2025年11月 訪日外客数 (JNTO推計値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2024年	2025年	伸率 (%)	2024年	2025年	伸率 (%)
	11月	11月		1月～11月	1月～11月	
総数	3,187,175	3,518,000	10.4	33,380,260	39,065,600	17.0
総数(中国除く)	2,640,836	2,955,400	11.9	27,003,211	30,299,800	12.2
韓国	749,506	824,500	10.0	7,950,388	8,485,300	6.7
中国	546,339	562,600	3.0	6,377,049	8,765,800	37.5
台湾	488,362	542,400	11.1	5,553,154	6,175,000	11.2
香港	227,062	207,600	-8.6	2,397,838	2,226,200	-7.2
タイ	118,001	117,400	-0.5	1,002,182	1,059,100	5.7
シンガポール	95,830	89,400	-6.7	554,976	585,600	5.5
マレーシア	62,027	71,200	14.8	435,254	536,000	23.1
インドネシア	48,841	56,400	15.5	442,657	558,900	26.3
フィリピン	87,078	92,000	5.7	710,144	769,500	8.4
ベトナム	50,213	51,800	3.2	581,113	634,800	9.2
インド	23,542	28,900	22.8	216,060	291,700	35.0
豪州	80,266	85,600	6.6	807,696	937,100	16.0
米国	247,464	302,500	22.2	2,486,071	3,036,000	22.1
カナダ	47,346	62,500	32.0	531,186	630,900	18.8
メキシコ	13,532	20,700	53.0	139,814	183,400	31.2
英国	37,050	45,100	21.7	406,911	500,300	23.0
フランス	31,126	41,400	33.0	364,359	431,500	18.4
ドイツ	25,187	33,700	33.8	310,089	409,100	31.9
イタリア	20,849	30,400	45.8	214,644	287,700	34.0
スペイン	18,810	24,200	28.7	171,781	231,900	35.0
ロシア	13,852	27,400	97.8	93,385	186,700	99.9
北欧地域	12,290	15,700	27.7	140,095	179,600	28.2
中東地域	19,140	28,100	46.8	153,690	239,800	56.0
その他	123,462	156,500	26.8	1,339,724	1,723,700	28.7

表5 2025年9月 目的別訪日外客数 (JNTO暫定値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2024年	2025年	伸率(%)	2024年	2025年	伸率(%)	2024年	2025年	伸率(%)	2024年	2025年	伸率(%)
	9月	9月		9月	9月		9月	9月		9月	9月	
総数	2,872,487	3,267,228	13.7	2,544,751	2,893,816	13.7	103,703	119,897	15.6	224,033	253,515	13.2
韓国	656,753	670,563	2.1	621,515	632,861	1.8	14,781	15,997	8.2	20,457	21,705	6.1
中国	652,405	775,657	18.9	543,989	651,521	19.8	24,972	28,143	12.7	83,444	95,993	15.0
台湾	470,635	526,982	12.0	453,133	508,372	12.2	8,069	8,830	9.4	9,433	9,780	3.7
香港	170,216	149,472	-12.2	165,851	144,962	-12.6	1,953	2,035	4.2	2,412	2,475	2.6
タイ	45,522	51,283	12.7	39,987	45,280	13.2	2,088	2,142	2.6	3,447	3,861	12.0
シンガポール	37,433	40,495	8.2	34,760	37,688	8.4	2,159	2,208	2.3	514	599	16.5
マレーシア	39,905	43,826	9.8	36,731	40,279	9.7	1,283	1,589	23.9	1,891	1,958	3.5
インドネシア	35,081	44,072	25.6	22,817	27,407	20.1	1,523	1,324	-13.1	10,741	15,341	42.8
フィリピン	46,618	51,615	10.7	36,727	39,931	8.7	3,874	4,968	28.2	6,017	6,716	11.6
ベトナム	45,857	50,419	9.9	9,465	10,033	6.0	3,018	3,477	15.2	33,374	36,909	10.6
インド	17,865	25,401	42.2	9,133	15,527	70.0	4,624	5,500	18.9	4,108	4,374	6.5
豪州	85,667	96,610	12.8	82,616	92,931	12.5	2,005	2,472	23.3	1,046	1,207	15.4
米国	191,942	224,793	17.1	174,091	206,717	18.7	11,625	11,606	-0.2	6,226	6,470	3.9
カナダ	49,981	55,654	11.4	47,798	53,304	11.5	1,045	1,161	11.1	1,138	1,189	4.5
メキシコ	14,972	19,735	31.8	14,312	19,092	33.4	328	274	-16.5	332	369	11.1
英國	37,413	47,114	25.9	32,616	41,958	28.6	2,822	3,102	9.9	1,975	2,054	4.0
フランス	30,745	38,825	26.3	26,029	33,550	28.9	2,074	2,345	13.1	2,642	2,930	10.9
ドイツ	37,092	52,819	42.4	32,684	47,638	45.8	2,521	2,975	18.0	1,887	2,206	16.9
イタリア	19,592	28,916	47.6	17,349	25,774	48.6	1,334	1,866	39.9	909	1,276	40.4
ロシア	10,187	21,174	107.9	8,622	19,213	122.8	695	1,045	50.4	870	916	5.3
スペイン	19,052	24,700	29.6	17,778	23,095	29.9	618	840	35.9	656	765	16.6
中東地域	14,194	29,684	109.1	12,725	27,191	113.7	762	1,116	46.5	707	1,377	94.8
その他	143,360	197,419	37.7	104,023	149,492	43.7	9,530	14,882	56.2	29,807	33,045	10.9

注：目的別訪日外客数の定義については、図3注参照。表中の赤枠は過去最高を更新した国及び地域

出所：日本政府観光局(JNTO)、2025年12月17日付より筆者作成